

ニュースレター

いりおもての森から

林野庁 九州森林管理局
西表森林生態系保全センター
平成 25 年 4 月 発行 No.37 号



サクララン

平成 25 年度が始まるのに当たって

国有林の一般会計化という節目の年になります平成 25 年度が始まりましたが、それに伴って、私たちの組織も平成 16 年に設立された「西表森林環境保全ふれあいセンター」から、「西表森林生態系保全センター」へと変わることになりました。

今まで取り組んできています各種モニタリング調査、森林環境教育、外来種対策等に加えて、この八重山地方における一般林政や自然環境保全等に対して、私たちが持っている知見等を生かして貢献できる業務としてはどのようなものがあるかを模索して、見える形にしていく年になるものと考えています。

さらに、「奄美・琉球」の世界遺産の暫定一覧表への追記ということに対する対応等も始まっています。私ども現場にいる者としては、西表島の森林生態系がきちんと保全され、持続可能な利用となるようにする取り組みを進めていくことが非常に重要だと考えられます。特に、ギンネムなどの外来樹種対策や観光等の利用による負荷を森林生態系に出来るだけ与えないようにする取り組みなどを強化していくことが必要となります。

改めて、本年度は、「新生林野庁・九州森林管理局」の西表森林生態系保全センターとして、今まで以上に関係者と協力をしながら様々な取り組みを進めていくスタートの年になりますので、よろしくお願ひします。



西表島の植物誌（携行版）の発行について



西表島の森林には、イリオモテヤマネコ・カンムリワシ等の固有種をはじめ希少な野生生物が生息していますが、植物においても、固有種や遺存種が多く聞き慣れない名前の植物が数多く生育しています。西表島で活動する上において、これらの植物を特定するための専門書や図鑑が少なく、植物を同定するのに苦慮していたことから平成 22 年 3 月に「西表島の植物誌」を発刊しました。作成した植物誌は、西表島における森林環境教育に活用することを目的に、西表島の小・中学校や各関係機関にも配布し活用を図ってきました。

本書は、森林教室等の野外学習活動に使用し、学習成果及び利便性の向上を図るため小学校低学年でも容易に使用出来るようにと配慮したサイズで作成しました。また、掲載している植物の種類を増やすと共に種名の他に、葉の種類、葉の付き方、葉の縁等の葉の構造からも検索できるようにしました。

平成 25 年度のガイド講習会を開催

2月22日(金)、23日(土)に沖縄森林管理署及び西表森林環境保全ふれあいセンター主催のガイド講習会を竹富町離島振興総合センター、北舟付川遊歩道(木道)及び西表亜熱帯樹木展示林内で開催しました。

このガイド講習会は、森林環境教育及び希少野生動植物種のモニタリングを推進する施設として設置した木道(延長150m)の利用を希望するガイドを対象に、平成20年度から開催し今回で6回目になります。

離島振興総合センターにおいて、当センターから木道を利用する際の留意事項等について説明した後、現地に移動し、北舟付川遊歩道(木道)及び西表亜熱帯樹木展示林内で遊歩道を歩きながら周辺に生育する植物について、各班の講師から説明を受けて森林観察を行いました。今回の講習は事前にガイドの皆さんにアンケートを実施し、意見に沿った形の講習となりました。

受講者は、補習者6名を含め43名(内新規受講者11名)の方が受講されました。



ガイド講習会での植物観察

「自然環境教育推進のための連絡会」を開催

3月6日(水)、西表島船浦の地域活性化施設(ときめきホール)において、今年度2回目の「自然環境教育推進のための連絡会」を、西表島内の各小・中学校の先生、西表島等で自然観察会等の活動を行っている研究機関、行政機関、各種団体等の代表併せて16名に出席頂き開催しました。

この連絡会は、西表島における自然環境教育プログラムの実施に当たって、連絡会員による情報交換を目的として開催したものです。

会議では、24年度のプログラム活用の報告・反省や次年度の活用計画等の報告、また自然環境教育推進に向けての前向きな意見が出されました。

当センターとしては、これらの意見を踏まえ、「西表島での自然環境教育カリキュラム改訂版」を大いに活用いただくよう取り組んでいきたいと考えていますので、皆様のご協力・ご支援をよろしくお願い致します。



自然環境教育推進のための連絡会

平成 24 年度海岸林自然再生試験地の成長量調査を実施

3月19日(火)、海岸林自然再生試験地において、自然再生状況を把握する成長量調査を実施しました。

海岸林自然再生試験地は、侵略的外来種である「ギンネム」が侵入している海岸防潮林を、自然災害に強い在来植生の森林に再生させる道筋を付けるためのものです。

試験地における生育状況は、在来種の「オオバギ・オオハマボウ」などの早生樹も昨年の台風被害を乗り越え一段の成長を示しております。しかし、「ヤンバルアカメガシワ」は台風被害や他の樹木の被陰の影響などなのか不明だが多少立ち枯れが目立ち始めています。

また、将来の森林形成の主役と期待する「テリハボク・フクギ」は確実に生育しており、他の樹木からの被陰やツル類の巻き付きに注意すれば今後の成長に期待が持てますが、テリハボクについては、成長が早いためか倒れ込む木も見られることから今後の生育状況に注意が必要です。



成長量調査風景

4月1日付 転出 お世話になりました。



上席自然再生指導官 山下 義治 (やました よしはる)

転出先：九州森林管理局 企画官 (技術開発)

これまでの2年間は、マングローブ林・船浦ニッパヤシのモニタリング調査、海岸林再生等これまでの業務経験が全く通用しない初めて経験する業務で、戸惑いと驚きの連続で新鮮な気持ちで仕事に打ち込むことができました。西表森林生態系保全センターへと組織が再編され今後、生態系保全に関する取り組みに重点をおいた業務が中心になります。世界自然遺産登録に向け在職される職員の皆様のさらなるご活躍を祈念し転勤のご挨拶と致します。

自然再生指導官 坂梨 豪俊 (さかなし ひでとし)

転出先：沖縄森林管理署 森林技術指導官

平成22年4月からの在勤3年間、地域の方々には大変お世話になりました。特に、大原中学校・船浦中学校の三大行事では、生徒や先生方また、父兄の方々と一緒に参加することができて沢山の良き思い出となり、改めて八重山の素晴らしい自然を目の当たりにして感動したところです。最後に、この豊かな大自然が維持され、西表島を訪れる多くの人々に感動を与えられるよう願っています。



自然再生指導官 梁川 伸一 (やなかわ しんいち)

転出先：鹿児島森林管理署 森林技術指導官

平成22年4月から3年間、西表島における自然再生業務に携わることが出来たこと、本当にありがとうございました。業務はマングローブ林の各種モニタリング調査が主でしたが、多くのツアー客を乗せた観光遊覧船のツアー客達から珍しいものを見るような視線を投げかけながらの仕事は恥ずかしいところもありましたが、今ではとてもいい思い出となりました。本当にありがとうございました。

4月1日付 転入 よろしくお祈いします。

所長 井田 篤雄 (いだ あつお)

前任地：林野庁 管理課 監査官

新しい組織として再編成された「西表森林生態系保全センター」の初代の所長として、西表島を初めとする八重山地方の自然を満喫しつつ、今までにJICAの専門家として熱帯林で働いてきた経験を生かして、西表島などの森林生態系の保全と持続可能な利用に貢献できればと考えています。

関係者の方々の協力を頂きながら、今まで以上に様々な保全活動などに取り組めれば良いと考えていますのでよろしくお願いいたします。

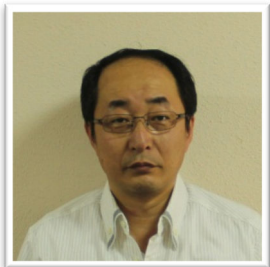


生態系管理指導官 吉田 真佐也 (よしだ まさなり)

前任地：九州森林管理局 森林整備課 設計指導官

西表での勤務は初めてとなりますが、亜熱帯照葉樹林として特異的な生態系を発達させているマングローブ林をはじめとして、西表島の豊かな森林生態系の保全業務に携わることができることに感謝しているところです。

保安全管理等の一層の推進を図るべく、様々な諸課題に取り組んで参りたいと考えますのでよろしくお願いいたします。



専門官 江口 頼雄 (えぐち よりお)

前任地：屋久島森林管理署 専門官(森林生態系保護担当)

沖縄勤務は、西表島、沖縄本島、石垣島と今回で3回目の勤務となります。現場は西表が主となるので当時勤務していた頃の友人と顔を合わすのが楽しみです。担当業務は、ヒナイ川・西田川の利用状況調査や森の巨人モニタリング調査等になります。

一般会計となり名称も変わりましたが、皆様のご協力を得ながらこれまで先輩方が継承してきたものがより良いものになるよう取り組んで参りますのでよろしくお願いいたします。



西表島の似たものの植物

アカテツ

vs.

ハマビワ



区 分	木本類
分 布	鹿児島 (宝島以南) 沖縄、小笠原、中国、台湾、熱帯アジア
葉 の 形	長楕円形
葉 の 縁	全縁
葉 の 先	鈍形

区 分	木本類
分 布	本州 (山口・島根)、四国、九州、沖縄、朝鮮南部
葉 の 形	長楕円形
葉 の 縁	全縁
葉 の 先	鈍形

葉 の 種 類	単葉
葉 の 付 方	互生
葉 の 基 部	漸尖形
実 の 種 類	液果
花 ・ 萼 色	白色

葉 の 種 類	単葉
葉 の 付 方	互生
葉 の 基 部	円形、漸尖形
実 の 種 類	液果
花 ・ 萼 色	淡黄色

せつ めい 明	<p>海岸に面した平地などに生育し、高さ約10mに達する高木もあれば、低木になるものもあり、小枝や葉の裏面には赤い褐色または灰褐色の短い毛が生えます。葉は革質で長さ5-9cmです。花は腋生で多数咲き径5-6mmです。花の色はごく淡い灰白色ですが、まれにしか咲きません。実は黒色のような藍色に熟します。アカテツに似た植物でハマビワがありますが、アカテツの葉裏が光沢が有るのに対し、ハマビワは光沢が有りません。</p>
---------------	---

説 明	<p>沿海地に生育し、高さ約7mの常緑の高木で、小枝は太く、葉柄に綿のような毛、葉の裏などに黄褐色の毛が生えます。葉は革質で互生し、長楕円形で長さ7-15cm、幅2-5cmです。葉の表面は無毛、深緑色で光沢があります。葉柄の長さは15-40mmです。実は大きく楕円形で長さ15-18mm、灰紫色に熟し、実の基部は杯のような筒に包まれます。</p>
--------	---

林野庁 九州森林管理局 西表森林生態系保全センター

〒907-0004 沖縄県石垣市登野城55-4 石垣地方合同庁舎内
TEL: 0980-88-0747 FAX: 0980-83-7108

URL: <http://www.kvusyu.kokuyurin.go.jp/huresen/huresentop.htm>

